# 碧水だより

ぐっと身近に！碧水小

○平成２０年　２月８日発行　第１０号
○阿蘇市立碧水小学校　文責　麻生廣文
○主な記事：学童ミニバス観戦記・大阪女子マラソンから・廊下掲示・総合学習特集学年末の重点取組・青少育成会議から市人同教実践報告会・図書寄贈お礼

学ぶ心　鍛う心　磨く心

## 清らかな碧水の心を育てるために

## 感動ありがとう・ミニバスケの試合から

### 学童ミニバスケの応援にかけつけて

二月二日（土）六年男子バスケット準決勝の内牧との試合でのことです。後半が始まり、しばらくはダブルスコア以上８対１９の差で負けていました。最後の力を振り絞り、勝利を目指して戦うのですが、なかなか追いつきません。しかも、ばてて足は止まり、パスもことごとくカットされました。スピードとパスワークで勝る内牧小チームに比べ、ボールが手につかなくなった碧水小は敗戦濃厚でした。

ところが、勝利を確信したのか、内牧小は精神的に守りに入ったように見えました。ファウルをおそれてのびのびしたプレイが陰を潜めます。碧水チームもファウルをおそれてはいましたが、縮こまったプレイではありませんでした。守りつつ攻撃。失敗してはまた守る。そうして、相手につけいる隙を与えずに、一つずつゴールを重ねました。１８対２３となったとき、「これは大変なことになった。」「いける！次に点を取った方が勝つ！」そう思いました。ここから、一進一退。どちらも点が取れません。じりじりした時間だけが過ぎていきました。しかし、とうとう最後に碧水が点を上げました。

２０対２３。いよいよ２ゴールで逆転です。こうなると勢いのあるチームが勝つのでしょう。ついに試合をひっくり返し、２５対２３となりました。残り３０秒となって、フリースローの応酬も競り勝って、２７対２４で終了のホイッスル。感動的な試合でした。

「勝負をあきらめないこと」「普段の力をのびのびと発揮すること」。簡単なようですがなかなかできないことです。こんなことを表現・体現してくれたバスケット部でした。すばらしい子どもたちの頑張りに感動しました。この試合のことはずっと忘れないでしょうし、こんな子どもの姿に私も最後までがんばるぞという力をもらいました。

翌日の決勝戦は、宮地小学校との対戦でした。この日の碧水チームは、残念なことに前半のリードを守れず、最後に力尽き、惜しくも準優勝に終わりました。しかし、二日間のゲームで子どもたちが周囲の人に与えた感動は計り知れないものがあるし、何より子どもたち自身が大きな何かを獲得したことだと思います。それは、きっと長い人生の中で生きてくることだと思います。

体の底からふるえるような感動、ありがとう。

## 福士選手に生きる力をもらった

「ふらつく足取りで何度も転倒した。最後まで笑顔は忘れなかった。二十七日、大阪で初マラソンに挑んだ『トラックのエース』、福士加代子選手は終盤に失速。それでも長居陸上競技場の観客は『よくやった』『お帰り』とこの日一番の拍手で迎えた。」

一月二十八日付け熊本日々新聞

女子マラソンにはいつも驚かされることがあります。シドニー五輪の高橋尚子選手やアテネ五輪の野口みずき選手も感動的なゴールを果たしましたが、大阪国際マラソンのこのシーンはそれよりももっともっと感動的なシーンでありました。

実は、トラック専門の福士選手は、ハーフマラソン程度の距離しか練習をしていませんでした。そこで、練習のあり方を疑問視する専門家がたくさんいました。その通り「マラソンは並大抵のことではない。」ことを実証した結果になりました。

その結果のつらさは福士選手自身が一番よく知っていることです。しかし、多くの観客は福士選手のひたすらさやひたむきさに感動し、惜しみない拍手を送ったのです。同情して拍手したのではないと思いました。私自身は、福士選手に「生きる力」をもらったと思いました。人を感動させるものは「結果ではない、その取組の姿勢であること」を思い起こされたのです。いつの頃からか、競争の論理が蔓延し、結果主義が横行する中、日本人の心に、まだ経過主義が廃れていないこと、途中の努力をよしとする美徳がまだまだ残されていることを嬉しく思いました。

結果ではなく、自分の目標達成に向けて努力すること。そして、その経過を認め、ほめ、励まし、伸ばす。このことは、熊本県義務教育課の取組の方向に示された行動指標ですが、このように、子どもたちに可能性に挑戦させ、継続した努力のもと、未来を切り拓いていく力を育てたいと思いました。

「生きる力」は、徳・知・体のバランスのもとに育まれます。一人一人の子どもたちが自分のよさや可能性を生かし挑戦し、友達と切磋琢磨する中に育ちます。また、周りの人や自然や文化と触れ合いながら育ちます。豊かな心と確かな学力とたくましい体を育成することを願って、碧水小学校の子どもたちの教育にあたりたいという思いを強くした一月二十七日の午後でした。

ＰＴＡの役員会で提案し集めました柱の端切れの角柱に言葉を書き、廊下やトイレに設置しました。
・おはよう
・早ね　早おき　朝ごはん
・やってやれないことはない
　やらずにできるはずがない
　生活習慣や格言もどきのもの、名言などを書き込んでいます。廊下歩行を静かにし、環境整備にもなります。学校生活にけじめや節度があって、思いやりいっぱいの学校になるように願っています。
　角材を提供していただきありがとうございました。

写真下　職員玄関
写真左　一年生前の廊下

### 切り絵クラブの作品

１月２３日のＮＨＫ「くまろく」で、切り絵が取り上げられ、その一部に本校の切り絵クラブの子どもと指導者の釣井先生が出ました。子どもたちの作品が掲示してあります。また、切り絵愛好者の方々の作品も３０点ほど展示します。ご提供有り難うございました。見事な作品が並び、「碧水小美術館」の様相です。校区の方々にも是非、ご覧いただきたいと思います。

校長室となり階段の作品

# 知ろう！学ぼう！みんなの阿蘇市！！

５年生は、総合的な学習の時間に、「知ろう！学ぼう！みんなの阿蘇市！！」のテーマのもとで、「共生するまちづくり」目指して、自分の興味や関心のある項目ごとに班を作り、いろいろな取組を進めています。

①リサイクル製品集め（ペットボトル、紙パック）
②花の栽培と配置
③ペットボトルのふたやプルタブ集め
④学校内外のごみ集め
⑤有用微生物（ＥＭ）菌培養液づくり
⑥マイバッグ制作　等

総合的な学習の時間は、こうした体験活動をとおして、つぎのようなねらいを達成するものです。

○　自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
○　学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

## 碧水小学校「総合的な学習の時間の取組（あそっ子タイム）」の紹介

本校の総合的な学習の時間は、３～６年生が取り組んでいます。

３年生　身近な地域から知る（年間一〇五時間）芋栽培、家の人の仕事等
４年生　身近な地域から学ぶ（年間一〇五時間）野菜栽培、虎舞、福祉等
５年生　地域の中で働く（年間一一〇時間）米栽培、虎舞、環境等
６年生　地域のよさを知る（年間一一〇時間）湧水の謎、虎舞、人権・平和学習等

体験活動は「活動ありて学習なし」とならないようにする必要があります。そこで、単なる体験活動から「課題を意識した体験活動」へと学習を高め、その学習の積み重ねを通して、右のねらいを達成し、地域を愛し、地域に働きかけることのできるふるさと観、勤労観・職業観の育成を図っています。

それぞれの学年で、芋や野菜、米を育てたり、地域の文化や伝統芸能（虎舞）や環境、福祉、平和学習等について、テーマにそって調べ、まとめ、発表したりしています。そうして、育てたい七つの力を総合的に育みます。

これに、英語活動（国際理解）やパソコンスキルを習得する時間（十二時間程度）もあります。子どもたちがとても楽しみにしている時間です。

低学年から取り組む必要があるので、特に生活科との関連を図っています。

### 「総合」で育てたい７つの力

①課題発見力
②企画力
③実行力
④情報活用能力
⑤コミュニケーション力
⑥自己評価力
⑦郷土愛

右の写真
５年生が集めたペットボトル。ふたやプルタブは集めてユニセフの活動に協力しています。

左の写真
有用微生物菌を培養して、プール掃除などに活用します。

下の写真
パンジーなどの花を種から育て、その花を登校してくる通用門や校門に飾りました。

## 「子どもの姿で勝負する」

全職員で、毎日の学校生活を送る子どもたちのすばらしい姿を目指して、一年のまとめの取組を進めています。

①指名されたら「はい」と返事ができるか。
②手は、まっすぐに伸ばして挙げているか。
③発表する声は、ゆっくり、はきはきした声であるか。
④目はみんなを見ているか。
⑤堂々と発表できるか。相手の目を見て話ができるか。
⑥聞くときは、発表する人の顔を見ているか。
⑦発表者に「がんばれ」という心がにじみでているか。
⑧発表した人に、「返し」はできているか。
⑨廊下歩行は静かであるか。
⑩読書では、本をめくる音が学級全体に届くくらいの静かになっているか。
⑪本を読むときは腕を伸ばして教科書を支えているか。
⑫速読、黙読、群読は、メリハリがついているか。
⑬理由をつけて答えることができているか。
⑭長い話ができるか。それを聞けるか。
体育前、着替えた服をたたんで教室を出ているか。
トイレのスリッパはきちんと並べているか。
友達と仲良く遊んでいるか。
アサーティブな言動はとれているか。もう一歩のところもあります。
こんな姿に近づいていますが、全部を一度に指導すると子どもは混乱します。一番気になるところから一つずつ焦点化します。最後まで粘り強く「清らかな碧水の心」を持った子どもの育成に取り組みます。

※　アサーティブな言動（相手の心をきずつけない自己主張などの言動）

平成十八年二月七日付け　熊本日々新聞より

平気でうそ／マナー悪い…

### 「手本の大人」テーマ　高校生が厳しい意見

阿蘇市で発表会

阿蘇市青少年健全育成推進大会が三日、同市一の宮町宮地の市就業改善センターであり、阿蘇高と同蘇南峰高の一、二年生六人が「青少年の手本となる大人」をテーマに意見発表した。

市青少年健全育成市民会議（梅木康裕会長）が「子どもの声に耳を傾けよう」と企画した。高校生は当初、保護者や学校関係者約六十人を前に緊張気味だったが、ステージに上がり、マイクを握ると堂々と発言。

「平気でうそをつく大人が多い。過ちがあれば、謝罪してほしい」「運転しながら携帯電話を使ったり、車からごみを捨てたりする大人を見かけたり、マナーが悪い」「大人は子どもをすぐに比べてしまう。子どもの気持ちを大切に」などと次々に発表した。

会場の大人たちは、大きうなずいたり、メモを取ったりするなどして神妙に聞き入っていた。

梅木会長をコーディネーターに、大人五人によるパネルディスカッションも実施。子どもが健やかに育つ家庭環境について話し合った。（長崎恒作）

「青少年の手本となる大人」について意見発表する６人の高校生＝阿蘇市

### 阿蘇市青少年育成推進会議

**２月３日（日）宮地就業改善センターで開催されました。大人が自分の身勝手なルールで取り繕って生きているとの高校生の鋭い指摘に、大人が生き方の手本を示すことが大切だと思いました。**

## 図書寄贈　有り難うございました

おたまじゃくし音楽教室の市原敏子様より、学校図書館へ本を寄贈していただきました。

## 阿蘇市学校人権同和教育部会実践報告会

二月六日（水）阿蘇清峰高校において、阿蘇市の小中高校の先生方が集まって、人権同和教育の報告会がありました。

報告者は、各学校からの代表者で、６つの分科会で行われました。本校からは、小出先生と宗先生が６年生の取組を報告し、その主な内容は、恵楓園の阿部智子さんとの出会いから子どもたちが学んでいったことをベースにしたものです。

子どもたちは、学んだことを思いとしてつづっていきました。それを語り、そこれに対して外の子どもたちの絆を深めていきました。互いに思いを返しながら、こはバルこの劇の発表にもつながりました。

阿部智子さんは碧水の子どもに立ち寄り、６年生と本校の劇が見たいと後日、感動の再会もしました。

子どもの成長も見られたというば感想が寄せられました。

報告会前の打合会の様子